

守山市大型カルバート長寿命化修繕計画

背景と目的

本市は、令和5年3月現在、1施設（守山駅構内地下連絡道）の大型カルバートを管理しています。

守山駅構内地下連絡道は、1986年に設置され（経過年数37年）、老朽化の進行に合わせて、大規模な補修や補強が必要となることが予測されます。

そのため、従来の損傷が深刻化してから大規模な修繕を実施する「対処療法的な維持補修」から、損傷が深刻化する前に修繕を実施し、1回毎の修繕に必要な経費を小さくする「予防的な維持補修」へと方針転換し、維持補修にかかる経費の縮減と地下道の機能維持、安心・安全を図るべく、大型カルバート長寿命化修繕計画を策定しました。

対象施設

守山駅構内地下連絡道

守山駅前に位置し、JR東海道本線を横断する、守山駅の東と西を結ぶ連絡地下道です。

また、商業施設にも接続し、市民生活を支える重要なインフラ施設です。



西側出入口状況

構内状況

管理方針

守山市では、以下の方法により施設状況を把握し、施設の管理を行っていきます。

日常点検

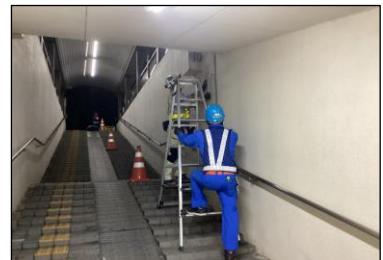
日常のパトロールにより、異常や損傷を早期発見します。

定期点検

5年に1回の頻度で専門業者により点検を実施します。

臨時点検

災害や事故等が発生した場合もしくは、発生する恐れがある場合、施設の安全性を確認する点検を実施します。



点検状況

施設の状態等

定期点検により見られた損傷例

ひび割れ



吹付け材の剥離



タイル舗装の欠損・う



大型カルバート長寿命化修繕計画に基づき、計画的に修繕を進めていく予定です。

対策内容と実施時期

今後10年間で対策を実施する対策内容と対策時期を整理しています。

表 対策内容・実施時期

施設名	延長 (m)	架設年次	供用年数	点検結果		維持管理計画									
				健全性	点検年次	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
守山駅構内連絡地下道	235.68	1986	37	III	R4	調査	設計 (修繕)	工事		点検					点検

対策費用

計画年数50年間の対策費用を整理しました。

計画初期に修繕を実施し、施設全体の健全度を回復させることで、今後50年間の修繕費用の削減が見込まれます。

また、今後50年間の維持管理は、「予防保全型維持管理」により実施することで、大規模な補修工事費を縮減できるとともに、地下道の安全性・信頼性を確保することができます。

なお、初期投資額が大きくなっていますが、今後の調査や設計段階において、変動する可能性があります。

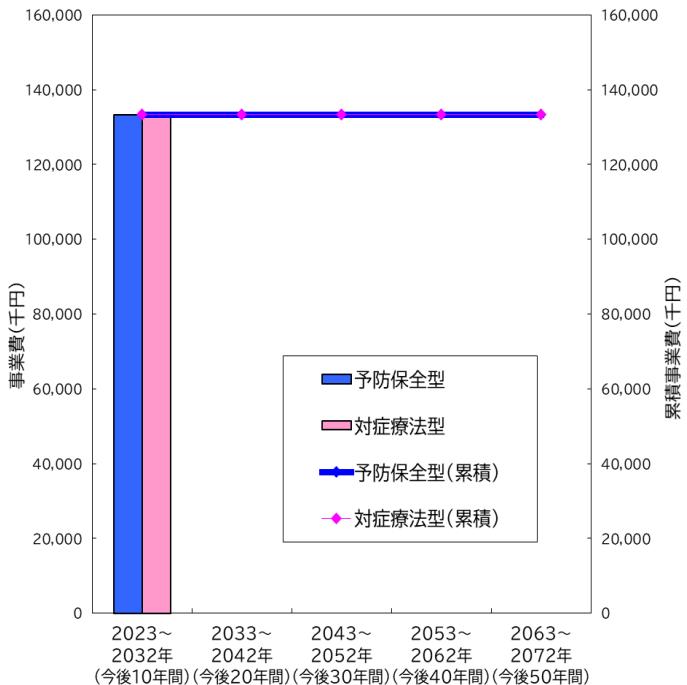


図 大型カルバート長寿命化修繕計画の効果

今後の方針

施設の点検・計画・修繕を計画的に実施することで、適切な維持管理に努めています。



意見聴取した学識経験者

立命館大学 理工学部 環境都市工学科 野阪 克義 教授

にご指導・ご助言を頂きました。